

環境白書の刊行にあたって

広島県知事 湯崎英彦



私たちが住む広島県は、南に瀬戸内海の多島美、北に雄大な中国山地を有しており、豊かな自然環境に恵まれています。

県では、この恵み豊かな環境を将来にわたって守り育てるため、「第3次広島県環境基本計画」、「第2次広島県地球温暖化防止地域計画」、「第3次広島県廃棄物処理計画」及び「生物多様性広島戦略」を策定し、環境と経済の好循環を図りながら、環境への負荷の少ない持続可能な社会づくりを目指して、県民や事業者の皆様と連携・協働した取組を進めているところです。

このような中、本県の環境を取り巻く課題は日々変化しています。

国においては、本年末にパリで開かれる気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)に向け、2030年度に2013年度比マイナス26.0%の水準とする新たな温室効果ガスの削減目標が決定され、これを受けて地球温暖化対策計画の策定が予定されています。

また、過疎化・高齢化の進行が里地里山の荒廃につながるなど、地域が抱える社会経済の課題は、環境問題と密接に関係したものとなっています。

県では、このような課題に対して、適切に対応し、県民の皆様が「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県を実現するために、様々な取組を進めていきます。

この白書では、「第3次広島県環境基本計画」の体系に沿って、本県の環境の現状や課題及びこれらに対する取組などを幅広く掲載しています。

持続可能な社会に向けて、あらゆる主体が考え行動することで、広島は変わります。

本書が、本県の環境についての理解を深め、考え、そして行動につなげていただくための一助となることを期待します。

平成 27(2015)年9月